

2013年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	建築・デザイン学科							
科目名	静定構造力学 I 及び演習							
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	1年前期			
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/必修科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)							
担当者	津田和明・平松晃							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> 合力や分力を数式解法および図解法で求めることができる。(A6,B1) 単純ばりの反力を数式解法および図解法で算定することができる。(A6,B1) 片持ち梁の反力を数式解法で算定することができる。(A6,B1) 静定トラスの応力を数式解法で算定することができる。(A6,B1) 静定トラスの応力を図解法で算定することができる。(A6,B1) 							
日程と内容	4/9 導入講義：導入講義 プレゼンテーション 4/16 力・力の三要素・力のモーメント・偶力・合力と分力 4/23 力の合成と分解・数式法・図解法 4/30 力の釣合い・数式条件・図解条件 5/7 構造と荷重のモデル・支点と反力算定 5/14 片持ち梁と単純梁の反力算定・数式法 5/21 図解法による単純梁の反力算定 5/28 臨時試験と解答解説 6/4 軸方向力とトラス応力 6/11 静定トラスの応力算定 1 節点法 6/18 静定トラスの応力算定 2 切断法 6/25 静定トラスの応力算定 3 図解法 7/2 静定トラスの応力算定 4 矩法 7/9 静定トラスの応力分布に見られる特徴 7/16 定期試験と解答解説 7/23 総まとめ							
成績評価基準	定期試験	30%	実技	0%	臨時試験	30%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	10%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	臨時試験(100点)では60点以上が68%(昨年81%、一昨年73%)、特に80点以上が51%(昨年61%、一昨年56%)、30点未満が5%(昨年5%、一昨年6%)であった。また、定期試験(100点)の結果は、60点以上が73%(昨年69%、一昨年66%)、特に80点以上が38%(昨年44%、一昨年49%)、30点未満が1%(昨年10%、一昨年8%)であった。これらの結果より、全体的に、昨年度に比べやや低下の傾向にある。 総合点で判定する授業としての合格率は96%であり、ほぼ授業到達目標を達成できたと言える。							
反省点	昨年度までは、演習のみ二つのクラスに分けていたが、今年度は授業から二つに分けて行った。この効果により、定期試験では、30点未満の学生が激減している。しかし、80点以上は、低下の傾向にあり、全般的に理解している学生が減少していると思われる。これは、授業中にしゃべっている学生が多く、授業に集中できていないためと推察される。 また、今年度より、授業資料を授業前に配布した。今回は、この効果は分からない。							
来年度の計画	今年度同様に進めていくが、授業中にしゃべっている学生に対し、何らかの対策を講じたい							
授業評価アンケートに対するコメント	10点総合評価で7.1であった。授業スピードが速いとのコメントが多い。来年度は、より学生の反応を見ながら、授業を進めていきたい。							
履修登録者数	102名	定期試験受験者数	94名	合格者数	90名	合格率	96%	